

2025 年 7 月 14 日 全 16 頁

「九州・沖縄」「北海道」など 5 地域で悪化～円高などの影響で消費の勢いが弱まる

2025 年 7 月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
主任研究員 田邊 美穂
研究員 高須 百華

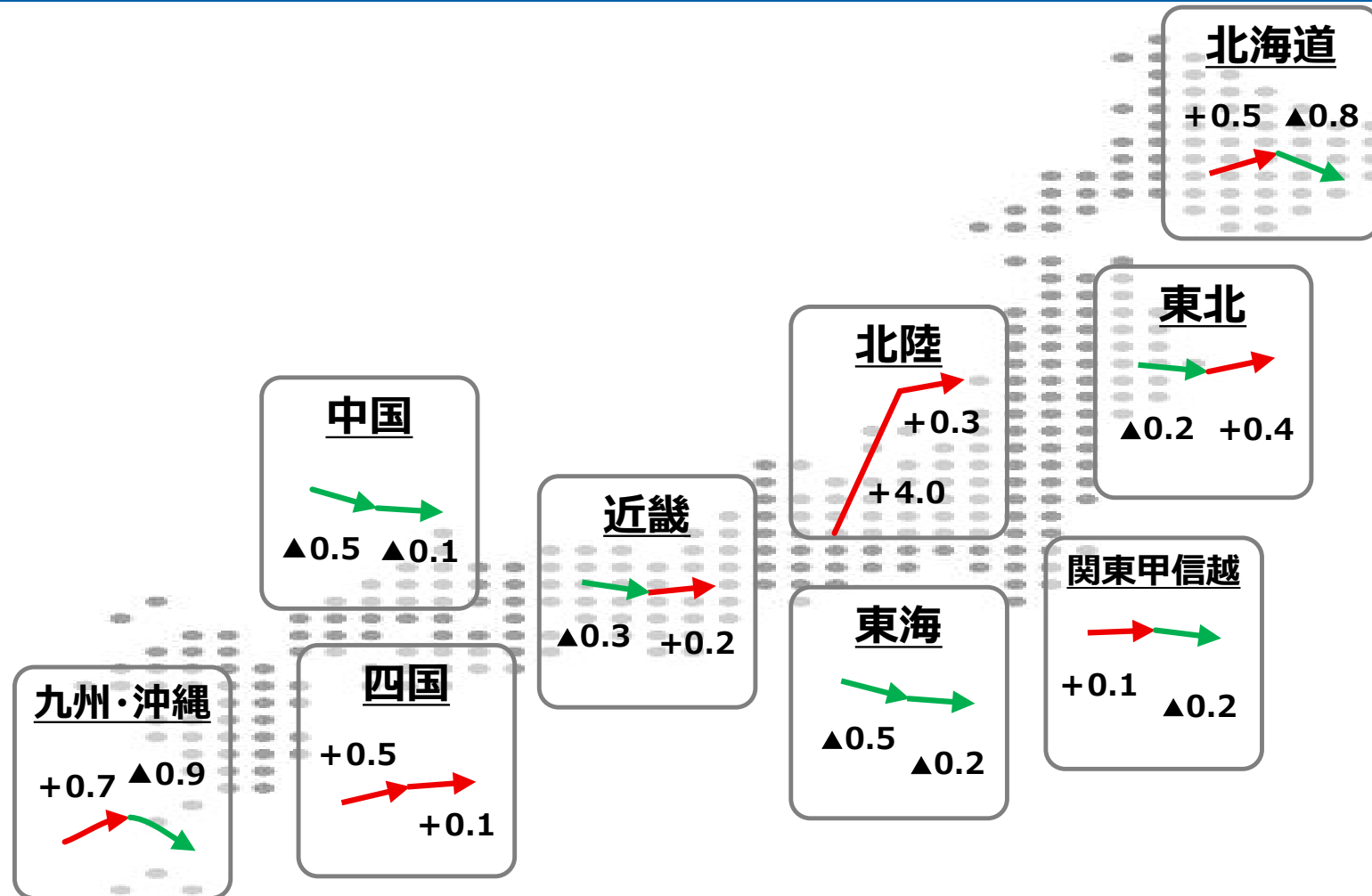
[要約]

- 2025 年 7 月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東北」を筆頭に 4 地域で改善した一方、「九州・沖縄」「北海道」など 5 地域で悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「九州・沖縄」「北海道」「北陸」などで悪化した。「九州・沖縄」「北海道」は円高のインバウンドへの影響で百貨店の売上が悪化し、「北陸」は国内旅行を中心に観光で弱さが見られる。長引く物価高で節約志向が強い地域もある。一方、「関東甲信越」「東北」などの地域では消費が改善した。両地域では家電分野が改善したほか、特に「関東甲信越」ではインバウンドの押し上げ効果で外食や旅行関連など対面型サービスが改善した。住宅投資は「北陸」などで改善した。能登半島地震などの被災家屋建て替えに伴う持家の受注が増加している。雇用・所得環境も「北陸」で改善が見られる。企業関連では、省人化や生産性向上に積極的な「北海道」などで設備投資が改善した。一方、EV 失速に伴う車載半導体需要回復の遅れの影響を受けた「北陸」や、各国の通商政策の不確実性により、一部地域で設備投資が悪化している。生産は「北陸」「九州・沖縄」「東北」で悪化しており、「北陸」では電子部品・デバイスや金属製品、「九州・沖縄」では汎用・生産用・業務用機械の生産が弱めだ。一方、「四国」「関東甲信越」は生産が改善しており、特に「四国」では化学が改善しつつある。輸出は中国向け半導体関連装置の需要一服などにより「九州・沖縄」で悪化した。企業マインドは「北海道」「関東甲信越」「東海」などで悪化の一方、「東北」などでは改善した。
- 全国的に見ると、緩やかな回復基調にはあるが、地域ではばらつきが見られる。特に消費に関しては、一部の地域で改善したものの、円高の影響によるインバウンド需要の弱さや米など物価高の影響を受けて、前回（2025 年 4 月）よりも勢いは弱まっている。また、米国の関税引き上げ前の駆け込みによる生産の改善や、省人化・生産性向上を目的とした設備投資の改善が見られる地域がある一方で、在庫調整、各国の通商政策の不確実性などが影響し、生産や設備投資が先送りされている地域もある。今後は、消費の回復や設備投資の改善が期待されるが、物価上昇、海外経済や為替相場の動向、各国の通商政策の影響には引き続き注意が必要だ。地域ごとの経済状況を注視しつつ、全体の回復基調を維持する対策が求められよう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発は、デジタルソリューション研究開発部データアナリティクスグループが担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4o ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (25 年 1 月→4 月、25 年 4 月→7 月)



(注1) 各地域の数値は、2025年1月から4月の変化幅と2025年4月から7月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（25 年 4 月→7 月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲0.8						
東北	+0.4						
北陸	+0.3						
関東甲信越	▲0.2						
東海	▲0.2						
近畿	+0.2						
中国	▲0.1						
四国	+0.1						
九州・沖縄	▲0.9						

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

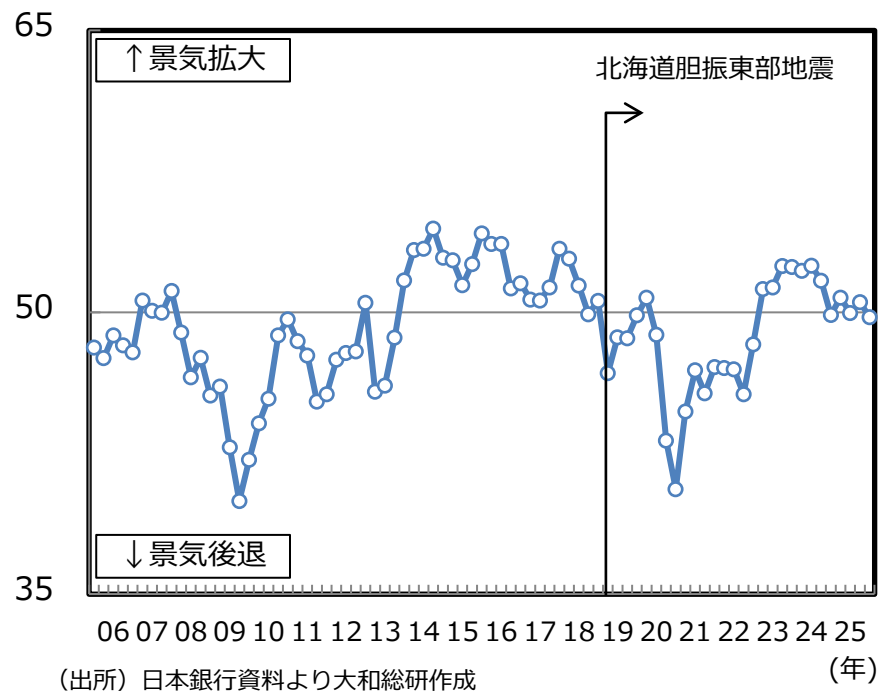
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (25 年 4 月→7 月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 4 月:50.5→25 年 7 月:49.7)。設備投資などが改善したものの、企業マインドや消費の悪化がインデックスを押し下げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 4 月:51.8→25 年 7 月:52.2)。生産の判断が悪化したものの、企業マインドや消費の改善がインデックスを押し上げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(25 年 4 月:50.8→25 年 7 月:51.1)。生産や消費、設備投資の判断は悪化したが、雇用・所得環境や住宅投資などの改善がインデックスを押し上げた。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(25 年 4 月:53.0→25 年 7 月:52.8)。消費や生産などが改善したものの、企業マインドの悪化を受けてインデックスは低下した。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 4 月:55.7→25 年 7 月:55.5)。企業マインドなどの悪化がインデックスを押し下げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(25 年 4 月:52.7→25 年 7 月:52.9)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 4 月:51.0→25 年 7 月:50.9)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな低下にとどまった。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(25 年 4 月:50.4→25 年 7 月:50.5)。企業マインドなどが悪化したものの、生産や消費の改善がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 4 月:51.7→25 年 7 月:50.8)。設備投資が改善したものの、消費や生産、輸出、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 4 月:50.5→25 年 7 月:49.7)。
- 設備投資などが改善したものの、企業マインドや消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは製造業・非製造業ともに悪化している。消費は円高のインバウンドへの影響で百貨店の免税売上が悪化しており、家電販売も悪化した。一方、設備投資は省人化や生産性向上を積極的に進めていることもあり、改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



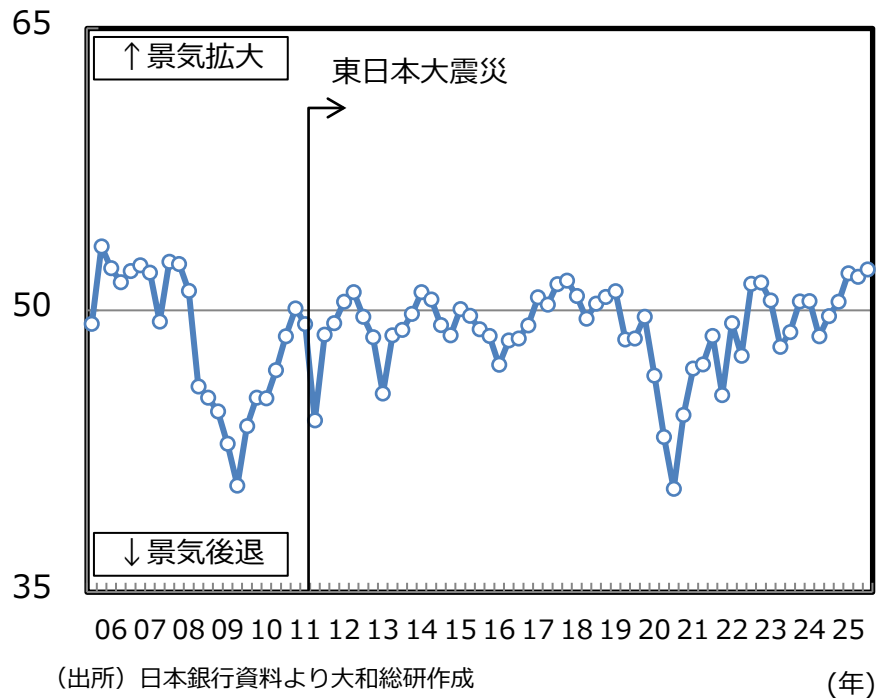
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している	一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している
【企業の業況感】	↓
小幅に改善した	小幅に悪化した
【消費：百貨店】	↓
回復している	足もと横ばい圏内の動きとなっている

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 4 月:51.8→25 年 7 月:52.2)。
- 生産の判断が悪化したものの、企業マインドや消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは電気機械などで改善、消費はスーパーが物価高の影響を受けたものの、家電大型専門店やコンビニエンスストアの改善が全体に貢献した。一方、生産は中国向け需要の弱さ等を背景に、生産用機械等で回復の勢いが弱まった。

大和地域 AI インデックスの推移



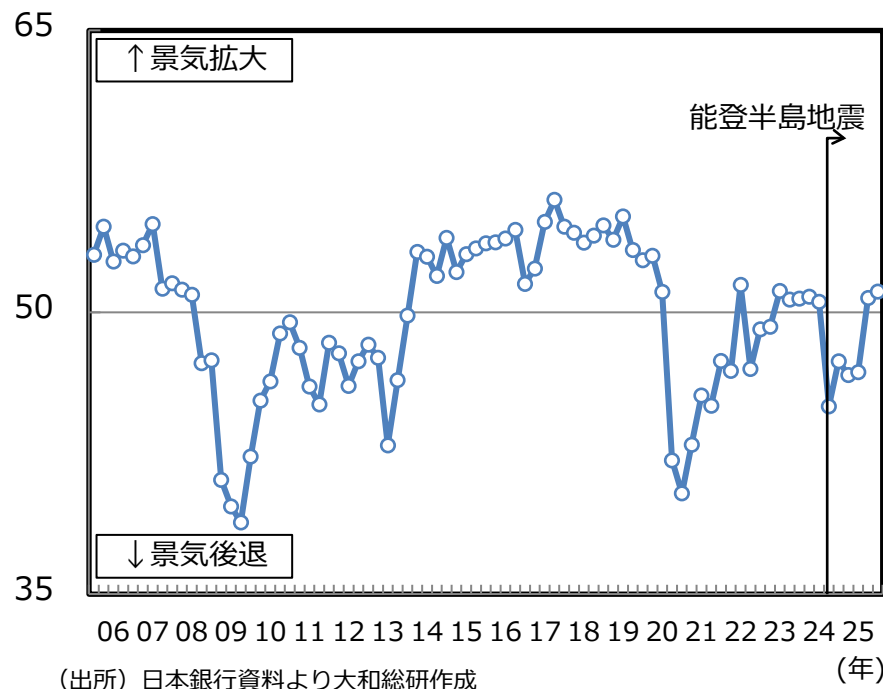
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↑
横ばいとなっている	改善している
【消費：家電大型専門店】	↑
弱めの動きとなっている	下げ止まっている

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(25 年 4 月:50.8→25 年 7 月:51.1)。
- 生産や消費、設備投資の判断が悪化したが、雇用・所得環境や住宅投資の改善がインデックスを押し上げた。
- 住宅投資は能登半島地震などの被災家屋建て替えに伴う持家の受注が増加。雇用・所得環境でも改善が見られた。一方、生産は電子部品・デバイスや金属製品で悪化、設備投資も EV 失速に伴う車載半導体需要回復の遅れの影響を受けて悪化している。消費も国内旅行を中心に観光で弱さが見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



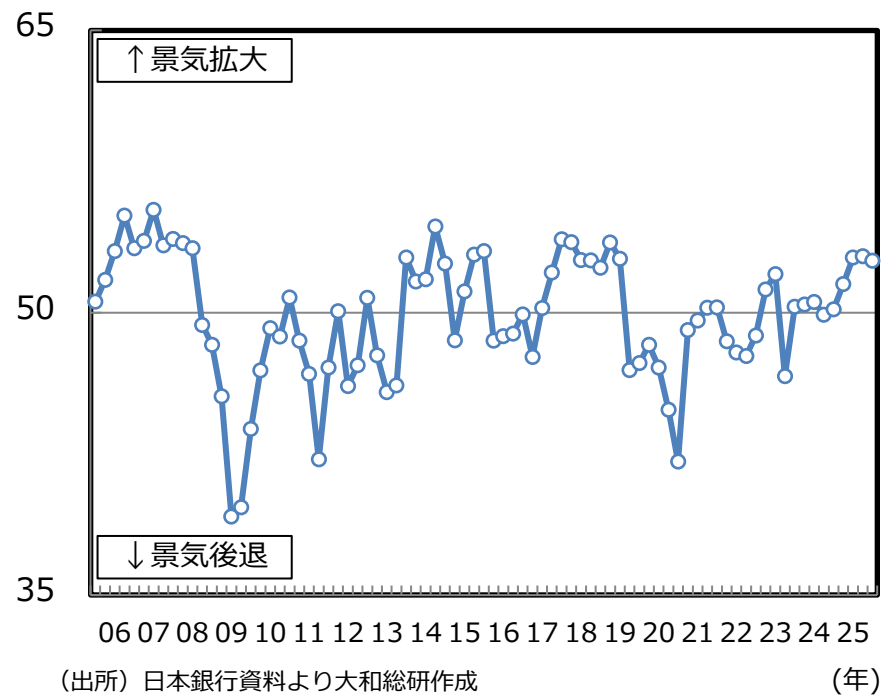
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、 緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、 緩やかに回復している
【雇用・所得環境】	↑
持ち直している	緩やかに改善している
【生産】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	弱めの動きとなっている

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(25 年 4 月:53.0→25 年 7 月:52.8)。
- 消費や生産などが改善したものの、企業マインドの悪化を受けてインデックスは低下した。
- 企業マインドが悪化する一方、消費はインバウンドの押し上げ効果で外食や旅行関連など対面型サービスが改善、家電販売額でも増加基調に転じるなど、明るい材料もあった。

大和地域 AI インデックスの推移



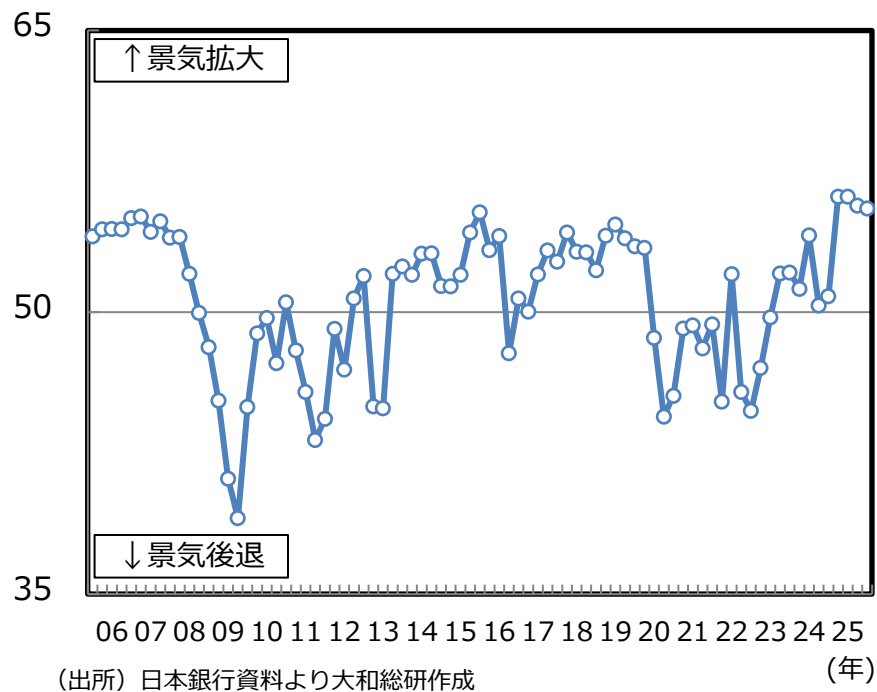
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↓
改善している	横ばい圏内の動きとなっている
【消費：対面型サービス】	↑
インバウンド需要の押し上げ効果が続くもとで、着実に増加している	インバウンド需要の押し上げ効果が続くもとで、増加している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 4 月:55.7→25 年 7 月:55.5)。
- 企業マインドなどの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは非製造業が改善したものの、自動車や窯業・土石製品などの製造業で悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



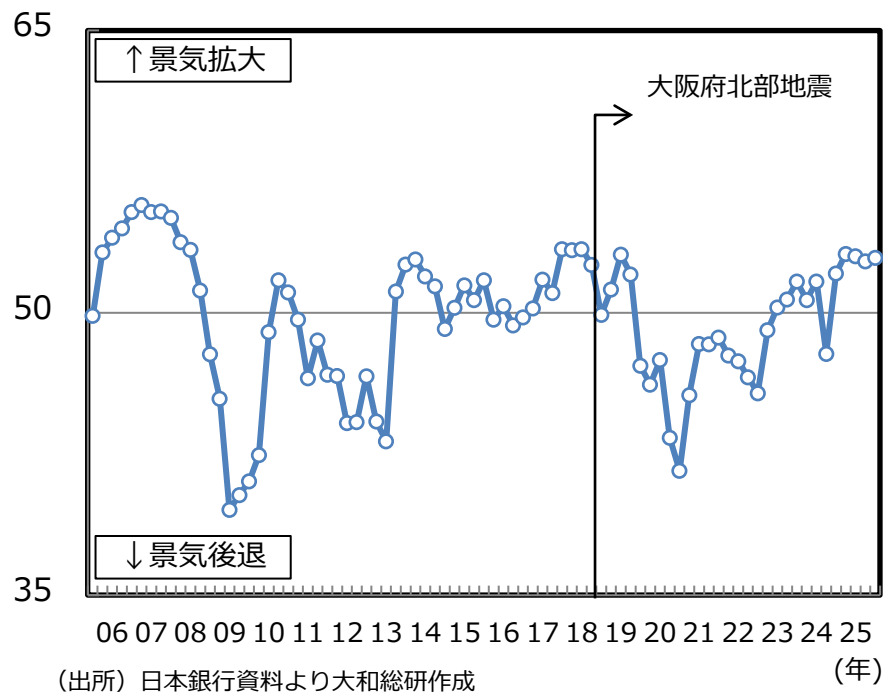
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【企業の業況感】	↓
改善傾向が続いている	良好な水準を維持している
【設備投資】	→
増加している	増加している

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(25 年 4 月:52.7→25 年 7 月:52.9)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。

大和地域 AI インデックスの推移



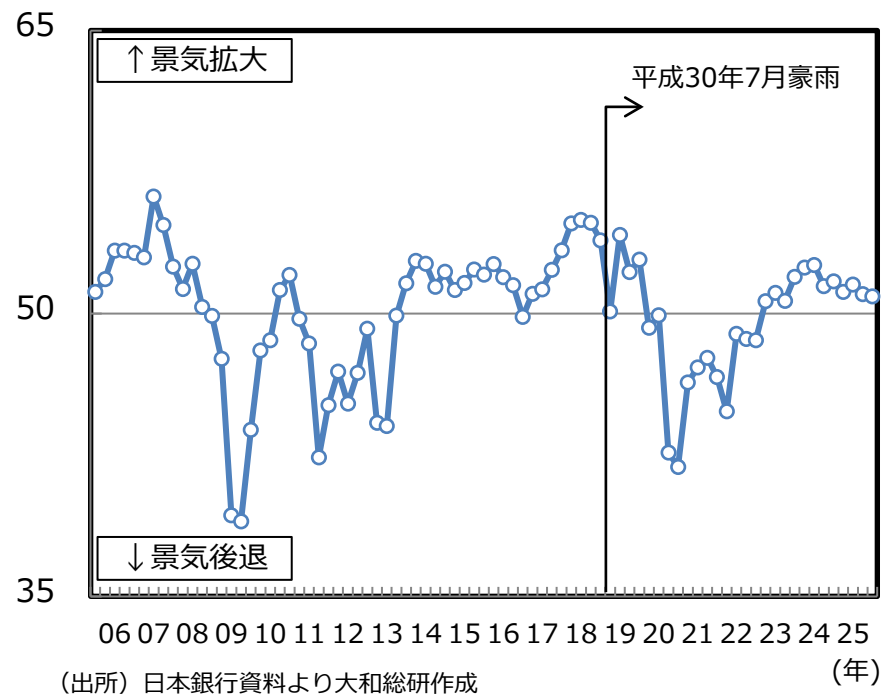
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
【設備投資】	→
増加している	増加している
【生産】	→
横ばい圏内で推移している	横ばい圏内で推移している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 4 月:51.0→25 年 7 月:50.9)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな低下にとどまった。

大和地域 AI インデックスの推移



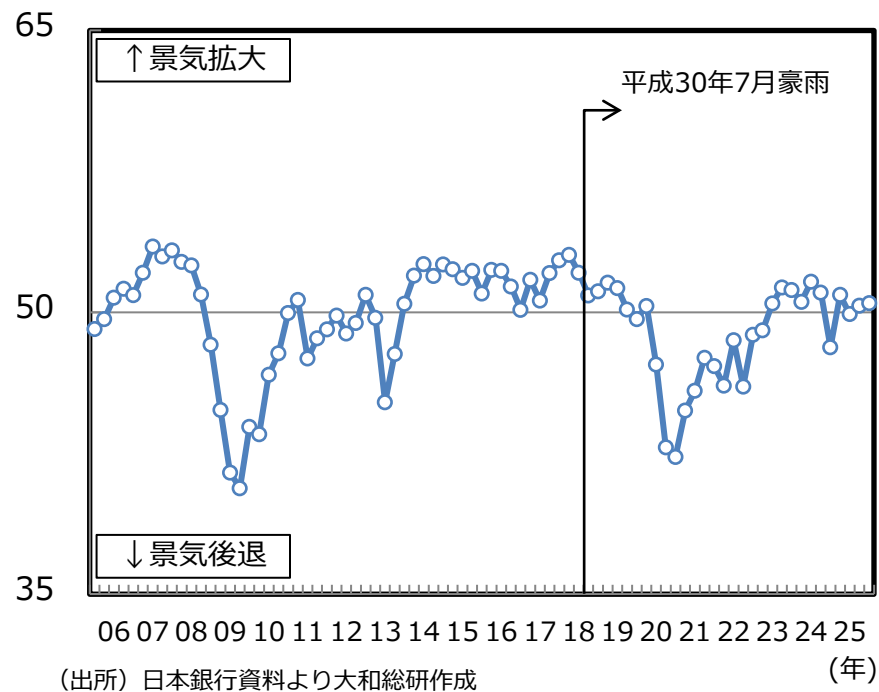
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【消費】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【生産】	→
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(25 年 4 月:50.4→25 年 7 月:50.5)。
- 企業マインドなどが悪化したものの、生産や消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は医薬品への需要が高まるもとで、化学で改善が見られた。消費は 2025 年 4 月以降の加工食品や菓子類の価格改定などにより、大型小売店の売上が改善した。一方、企業マインドは、製造業・非製造業ともに悪化している。

大和地域 AI インデックスの推移



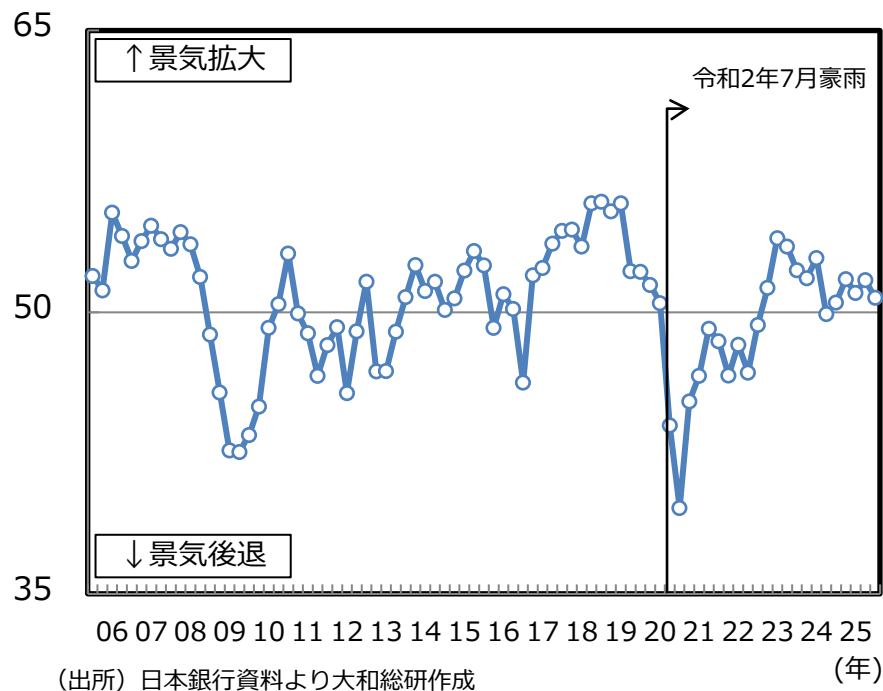
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【生産：化学】	↑
振れを伴いつつも、 下げ止まっている	振れを伴いつつも、 持ち直しの動きがみられる
【企業の業況感】	↓
横ばいとなっている	幾分悪化している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 4 月:51.7→25 年 7 月:50.8)。
- 設備投資が改善したものの、消費や生産、輸出、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
- 消費は円高の影響もありインバウンド需要では単価の低い商品へのシフトなどがみられ、百貨店の売上が悪化。生産でも汎用・生産用・業務用機械が弱めとなっている。輸出も中国向け半導体関連装置の需要一服などにより悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 4 月	25 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【消費：百貨店売上高】	↓
緩やかに回復している	高水準ながら、足もとでは前年を下回っている
【輸出】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	弱めの動きとなっている

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが我が国の大きな課題**となっている。
地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2025 年 7 月 10 日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

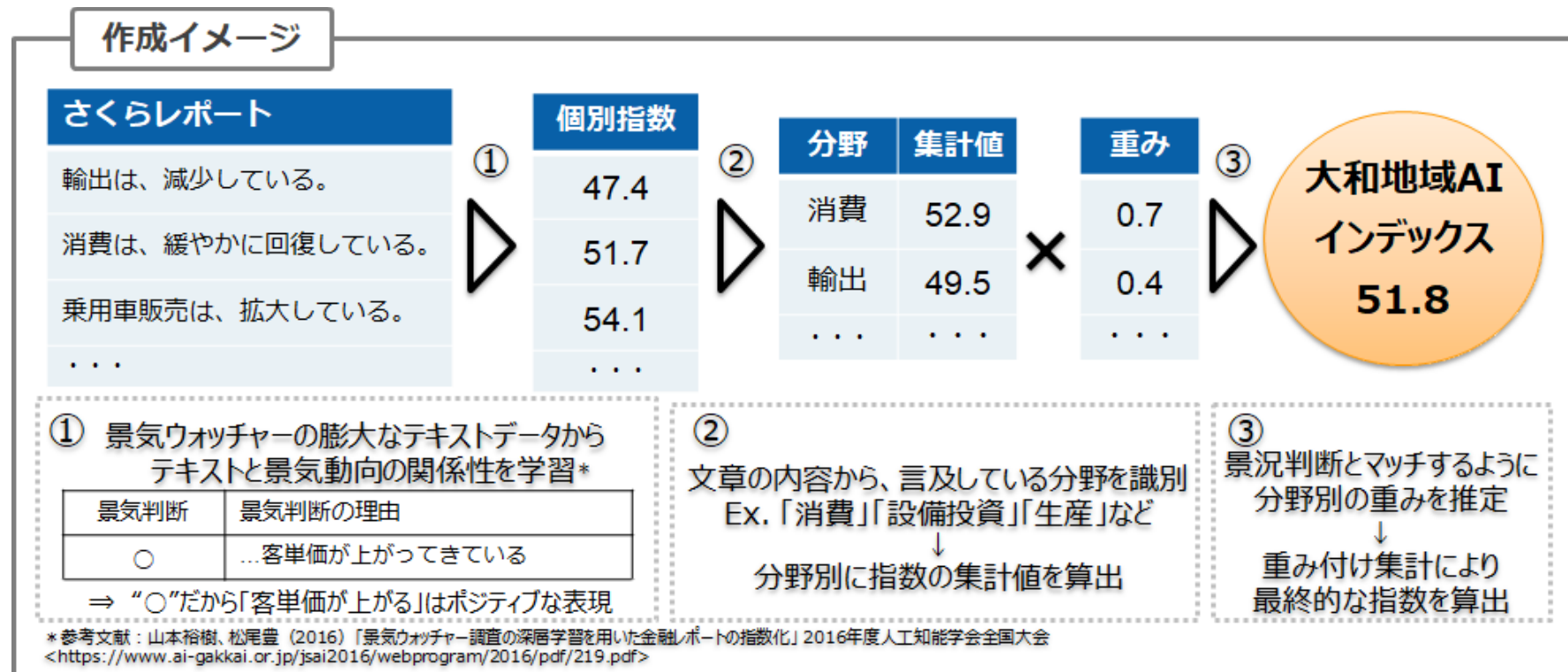
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

（出所）日本銀行より大和総研作成